

関経連 NOW 新たな夢と希望にあふれた 活力ある関西の創造を

関経連は、2018年5月28日に第56回定時総会を開催。

役員を選任のほか2018年度の事業計画や予算の報告などを行い、

新たに小林哲也 近鉄グループホールディングス会長、村尾和俊 西日本電信電話社長の
2名が副会長に選任された。

ここでは、松本会長へのインタビューとともに、今年度の事業計画を紹介する。



新たな中期計画と 2018年度事業への思い

関経連会長として2年目を迎えた松本会長。
1年目の活動の振り返りや、第3期中期計画ならびに
本年度の事業活動への意気込みなどを聞いた。

会長インタビュー



松本 正義

関西経済連合会会長

——会長に就任されて1年が経ちました。まずはこの1年を振り返っていただけますか。

昨年5月に関経連の会長に就任したわけですが、一言でいうと、想像以上に忙しく、あっという間だったという印象です。その間、主な事柄だけでも、米国トランプ政権の外交・通商姿勢強硬化、中国習政権の体制強化、北朝鮮の核・ミサイル問題の深刻化などがあり、世界は乱気流にもまれた1年でありました。一方で、世界経済については、緩やかながらも着実に拡大し、日本経済もその恩恵を受けてきました。関西経済も、好調なインバウンド効果などにより浮上の足がかりを得てはいますが、米国の長期金利上昇をきっかけとした世界的な株安傾向や円高が継続すればその影響が及ぶかもしれない、引き続き動向を注視したいと思っています。

そうしたなかで強く感じていることがあります。それは、国際博覧会(万博)の誘致活動などを通じて、関西の一体感が以前にもまして醸成されてきているということです。G20の大阪開催も決まりましたし、目的を

共有して、一つのことに取り組むことによって、連携も一層強まっているように感じています。これを関経連の他の事業にも広げていきたいですね。

それと、この1年間、なにより会員の皆さんに支えられてやってくることができたと感じています。副会長の皆さん、各委員会の委員長・副委員長・委員の皆さん、スタッフの皆さんをはじめ、関係する多くの方々が本当にいろいろな面で支えてくださっています。この場を借りて感謝申し上げたいと思います。

——年初に、新たな中期計画(2018~20年度)を公表しました。

関経連では、下妻会長時代の08年に、関西の「ありたき姿」をとりまとめた「関西ビジョン2020」を公表し、「自立・地域力」「技術・創造力」「多様性・活力」の3つをキーワードとして、関西ならではの「突破力」を発揮し、日本の閉塞感の打破や世界経済の成長制約リスクの解消に貢献することを宣言しました。前任の森会長は、その「関西ビジョン2020」の具体像を示し、

その実現に資するために、2012年から20年までの9年間を3期に区切り、それぞれに中期目標を設定することとされました。その3期目にあたる今回、20年度までの3年間の中期計画では、関西の「ありたき姿」の具体像を、①関西が自らの力で日本をリードする!、②アジア有数の中核都市圏(ハブ)となる!と設定した上で、2つの視点を提示しています。

一つ目の視点は、「Look West」です。関西から見て東にある東京ではなく、西にあるアジアに目を向けようということと、いつまでも「東京一極集中を是正すべき」と言うだけでなく、関西がどのように発展していくのかを自分たちで考え、実行していくという意味を込めました。

二つ目の視点は、「グローバルな視点での舞台としての関西」です。関西にいる企業・人材が活躍するのはもちろんのこと、日本のほかの地域から、アジアから、そして世界から、企業・人が関西に集って、関西を舞台に活躍する。そのための条件を整えていく、ということなのです。

なお、国連が掲げた世界共通の目標であるSDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)の達成に向け、各事業を通じて貢献していくということもこの中期計画の特徴の一つです。

そうした考えのもと、この3カ年の中期目標として、「関西の成長を支える基盤・環境を整備する」「将来の関西を支える産業クラスター群を形成する」「アジアなど世界各国から関西に集う活力を最大化させる」の3点を掲げました。目標の実現に向け取り組むべき事業として、柱となる「グローバル/アジア」「産業イノベーション」「スポーツ」「地方創生」「文化/観光」および、それらのベースとなる「インフラ」「ビジネス基盤」を掲げています。

——それをふまえての18年度事業計画となるわけですね。

そうです。17年度は森前会長が策定された第2期中期目標の最終年度として、万博の誘致活動をはじめ、リニア中央新幹線・北陸新幹線の早期開業・延伸や高速道路のミッシングリンク解消に向けた働きかけ、4月に発足した関西観光本部と連携したインバウンド推進諸施策の実施、「親関西人材」の拡大を通じたビジネス機会の創出、抜本的税制改革に向けた提言など、さまざまな取り組みを行ってきました。

18年度は、第3期中期計画の初年度として、関経連独自の視点での政策提言をはじめとする企業・経済活動の基盤整備や、鉄道・道路・空港などさまざまなイ

ンフラ整備に向けた取り組み、といったベースとなる活動に加え、以下の5つの項目に取り組みます。

まずは「グローバル/アジア」です。これまでの取り組みをふまえ、アジア各国と関西双方が互いに学びあうTWO WAYの視点でビジネスメイキングをするプラットフォームづくりを行います。すでに具体的な動きが始まっています。

「産業イノベーション」では、成長分野において次の時代の関西の発展を支える産業クラスター群の形成をめざすわけですが、まずは、健康・医療分野をはじめとして、それに向けた具体的な取り組みを進めていきます。また、これまでのイノベーションを支える拠点づくりやベンチャーエコシステム構築への取り組みの深化はもちろん、大学との連携強化も忘れてはなりません。

「スポーツ」では、スポーツが広範なすそ野を持つ産業であるという意識がようやく共有されてきています。トップアスリートの育成をはじめ、生涯スポーツの振興とスポーツ参加者のすそ野の拡大、スポーツイベントの招致、スポーツ産業振興をめざします。2019年から21年にかけての、いわゆる「ゴールデン・スポーツイヤーズ」を契機として、スポーツを通じて地域、経済も元気にしたいと決意しています。

「地方創生」では、関経連が長年取り組んできた、地方分権・道州制に引き続き取り組みます。わが国での地方分権の流れが定着・進化するよう、積極的に意見交換、提言を行います。

5つめが「文化/観光」です。25年万博の大阪・関西への誘致活動をさらに進め、何としても本年11月のBIE(博覧会国際事務局)総会で誘致を勝ち取れるように、関係各所と連携しながら、関西経済界として全力をあげて取り組みます。また、統合型リゾート(IR)については、人々の不安を払拭し、IRが関西の発展に最大の効果をもたらすよう、しっかり考えていきたいと思えます。

——最後に、会員の皆さんに一言お願いします。

関西の発展は、皆さんと共にあると信じて、関経連の会長を務めています。関経連は、将来を見据え、新たな夢と希望にあふれた活力ある「大関西」の創造をめざして活動を行っていきますので、会員の皆さんも関経連の活動に積極的にご参加いただき、ご意見をいただければと考えています。関西が自らの力でさらに発展を遂げ、日本をリードしていけるよう、力を結集してまいりましょう。

この1年間のご協力に感謝申し上げますとともに、ますますのご支援をお願い申し上げます。

「第3期中期計画」の初年度となる2018年度の事業活動にあたっては、新たな一步として、足元の状況への対応に加え、将来顕在化すると考えられる課題にも焦点を当て、関西がどのように発展していくべきか自ら考え、率先して実行していかなければならない。そこで今年度は、中期計画で定めた「グローバル／アジア」「文化／観光」「産業イノベーション」「スポーツ」「地方創生」および、ベースとなる「インフラ」「ビジネス基盤」を主な柱として、計12の事業、36の実施内容を展開する(表)。これらの推進にあたっては、国連が掲げる世界共通の目標であるSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、各事業を通じて貢献していくという意識を持ち取り組んでいく。

○委員会・事務局体制の強化

新たに選任された小林哲也副会長は、企業法制委員会と国土・広域基盤委員会を担当し、村尾和俊副会長は科学

技術・イノベーション委員会、国土・広域基盤委員会のほか万博推進も担当する。また、今年度の委員会体制の特徴の一つとして、女性の副委員長が増えたことがあげられる。

強い経済の実現に向け、グローバルな視点で関西の強みを磨き、アジアと双方向の関係を構築していく視点は重要であるとの認識に基づき、新たな事業として盛り込んだ「アジア各国と関西双方の経済発展に向けたプラットフォームづくり」については、国際委員会の傘下に「アジアビジネス専門委員会」を、国際部内に「アジア協力プラットフォーム推進室」を新設し、積極的に事業を推進していく体制を整えた。

事業計画の全文および2018年度各体制等については、関経連ホームページに掲載しています。
URL：<http://www.kankeiren.or.jp>

表 2018年度事業計画概要

 <p>アジア グローバル</p>	<p>(1)アジア各国と関西双方の経済発展に向けたプラットフォームづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ① アジアと関西のビジネス活性化による経済発展に向けた双方向のプラットフォームづくり ② 関西企業のビジネス創出に向けた機会の提供 ③ 企業のグローバル化に資する人材の育成と関西での活躍機会の確保 <p>(2)国際情勢変化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 経済連携をはじめとする国際社会の情勢変化の把握と対応等に関する会員企業への情報発信
 <p>観光 文化</p>	<p>(3)万博・IR/MICEの誘致とインバウンド推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2025年万博の大阪・関西誘致の実現 ② 「KANSAI国際観光指針」に掲げる2020年目標達成に向けた取り組み ③ IR/MICE誘致・体制づくりと都市魅力の向上 ④ 関西各地の歴史・文化等の魅力・「はなやか関西」を活用した関西ブランドの発信
 <p>産業イノベーション</p>	<p>(4)産業クラスター形成に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 健康・医療データ利活用等による「生き活き関西“健康・医療”先進地域ビジョン」の実現 ② 航空機産業への新規参入・マッチング支援 ③ 水素社会実現に向けた機運醸成や関連産業振興の可能性調査 ④ AI・IoT活用による新サービス創出と生産性向上支援 <p>(5)ベンチャーを生み出すエコシステムの形成とイノベーションを支える拠点づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ① うめきた2期等におけるベンチャー・エコシステム形成に向けた取り組み ② けいはんな学研都市のイノベーション拠点機能強化に向けた支援 ③ 実効性あるイノベーション支援体制の構築・大学との連携強化による産業を支える仕組みの実現

(6) スポーツによる関西の活性化

- ① 「関西スポーツ振興ビジョン(仮称)」の策定
- ② 関西におけるトップアスリートの育成に向けた産官学による仕組みの構築
- ③ ゴールデン・スポーツイヤーズを契機とした生涯スポーツの振興に向けた官民一体による取り組み
- ④ スポーツ産業振興方策の検討
- ⑤ スポーツイベントの招致に向けた検討

(7) 地方分権・道州制の実現に向けた取り組み

- ① 従来型でない意見発信・理解促進に向けた取り組み、政府・各党への働きかけ
- ② 関西広域連合と各分野における共同事業の実施

(8) 複眼型国土の形成と広域交通・物流ネットワークの整備・強化

- ① 複眼型スーパー・メガリージョンの実現に向けた構想具体化と提案の実施
- ② リニア中央新幹線の早期全線開業、北陸新幹線の大阪早期開業の推進
- ③ 関西の高速道路ミッシングリンク解消の推進
- ④ 関西経済活性化に資する関西圏空港のあり方の検討、関空の利用促進
- ⑤ 阪神港等の関西の国際物流の活性化
- ⑥ 国・地域・企業のセキュリティ向上の促進

(9) S+3Eのバランスが取れ、経済成長と両立する エネルギー・環境政策の推進

- ① 現実的なエネルギーミックスの構築や経済成長と両立する環境政策の実現に向けた国等への働きかけ
- ② 女性・次世代へのエネルギーミックスの学習機会の提供

(10) 財政健全化と経済成長の両立に向けた中長期的な経済財政運営の実現

- ① 財政健全化と経済成長の両立および多様な働き方に対応した税財政の実現に向けた国への働きかけ
- ② 関西経済の動向・実態の適切な把握と日銀・財務省、会員企業等への情報発信

(11) 競争力・企業存立基盤の強化に資する法制度・会計制度等への対応

- ① 中長期的な企業価値向上に向けたコーポレートガバナンスに関する提言
- ② 社会経済環境の変化および企業の声を踏まえた競争法に関する提言、会社法改正への対応

(12) 実効性ある働き方改革の実現・女性活躍推進に向けた 雇用・労働環境の整備

- ① 「働き方改革実行計画」における中長期的課題・労働法改正への対応
- ② 「働く女性が最も活躍できる地域・関西」に向けた取り組みの推進